

優秀賞

## 身近で起こった交通事故

福岡市立博多小学校 6年 能塚 旦

ぼくがいつも歩く通学路の交差点、横断歩道の真ん中には、いつも花がビンにさして置いてあります。その花は、かれる前には必ず新しい花にかえてあっても何年もその場所にあります。

ぼくはその花の理由を知っています。その場所で何年か前に交通事故が起こって、近くに住んでいる人が亡くなったそうです。中学生のお母さんだったそうで、そのお母さんを忘れないように花を置いてる事を、ぼくはお父さんから、聞きました。

もしもそういう事故が起こったとしたら…と思うととてもこわくなります。

別の日に、その交差点の真ん中で信号待ちをしている小学一年生数人が花にバッグをぶつけて、花びらを散らしていました。ぼくはすごくいやな気持ちになり、注意したかったけど信号が変わったのでそこからはなれてしまい、結局は注意できませんでした。その理由を聞いたら、やめてくれたかも知れません。

この交差点の先の道路で、今年交通事故が起きてしまって、同じ小学校に通っている子のお父さんが亡くなってしまいました。

一方は交通ルールを守っていたとしても、もう一方がルールを守っていなければ、事故になってしまいます。交通事故というのは、いろいろなぐうぜんが重なって起きるのだと思いますが、人が気をつけていれば防げる事故も、たくさんあります。今、けいたい電話に出なくても車を止めて出るとか、お酒を飲んで運転しないなど、みんなで交通ルールやマナーを守っていれば、もっと交通事故は減らせると思うし事故が減ったら、悲しむ人達も減ります。

そんな社会になってほしいとぼくは思います。

ぼくは交通事故が少しでも減るように、ルールやマナーを必ず守ろうと強く思いました。